

令和6年第2回塩尻市辰野町中学校組合教育委員会会議録

令和6年第2回塩尻市辰野町中学校組合教育委員会が、令和6年6月28日、13時00分、北小野地区センターに招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

報告第1号 両小野学園運営協議会委員の解任及び任命に係る専決処分報告について
報告第2号 要保護・準要保護生徒の認定について<非公開>

4 議事

議事第1号 中学校に係る部活動の方針及び塩尻市部活動地域移行計画（案）について

5 校長報告

6 閉 会

○ 出席委員

教育長	赤羽	高志
教育長職務代理者	両角	東平
委員	小澤	晃
委員	小松	恵美
委員	竹澤	克彦

○ 説明のため出席した者

両小野中学校長	富田	章
こども教育部長	百瀬	一典
こども教育部次長 (こども未来課長)	竹中	康成

○ 事務局職員出席者

学校教育課長	上條	崇
教育施設課長	五味	克敏
学校教育課課長補佐 (児童生徒支援係長)	小松	義宏
学校教育課学校運営係長	高山	和都
学校教育課教育企画係 主事	瀧沢	快斗

○ 本日の会議に付した議事

会議日程に記載のとおり

1 開会

赤羽教育長 皆さん、こんにちは。時間より早いわけですがけれども、全員お集まりですので、これから令和6年第2回塩尻市辰野町中学校組合教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、令和6年度人事異動による新しい職員の紹介を、各自自己紹介でお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

百瀬子ども教育部長 皆さん、こんにちは。今年度子ども教育部の職員が結構変わっておりますので自己紹介させていただきます。この4月から、子ども教育部長としてまいりました百瀬一典と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

竹中子ども教育部次長（子ども未来課長） こんにちは。子ども教育部次長並びに子ども未来課長になりました竹中康成と申します。よろしくお願いいたします。

上條学校教育課長 こんにちは。この4月から学校教育課長でまいりました上條崇と申します。よろしくお願いいたします。

五味教育施設課長 こんにちは。教育施設課長の五味克敏と申します。前職は教育総務課の施設担当課長をしておりました。引き続きよろしくお願いいたします。

高山学校教育課学校運営係長 このたびの人事異動で、学校教育課学校運営係長となりました高山と申します。よろしくお願いいたします。

赤羽教育長 ありがとうございます。

2 前回会議録の承認

赤羽教育長 続きまして、2番、前回会議録の承認について、事務局からお願いいたします。

瀧沢学校教育課教育企画係 前回、令和6年第1回教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますので、よろしくお願いいたします。以上です。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

赤羽教育長 そのようにお願いいたします。

3 教育長報告

赤羽教育長 続いて、教育長報告に入ります。よろしくお願いいたします。

1点目です。6月16日の日曜日、北小野勝弦地区の塩嶺体験学習の家で、子ども未来塾「リーダー研修」が開催されました。未来を担う子どもたちの社会性や豊かな人間性を育むねらいで、この学習はずっと継続しております。塩嶺体験学習の家は自然豊かな場所にありまして、この日、9校から24名の6年生の児童会代表のメンバーが集まり、目を輝かせ、大型バスから降りてきました。私が早めに現場に到着したのですが、今まで塩嶺体験学習の家は宿泊客が少なかったのですが、この日は何十組というくらいの方が県外から見えて、宿泊していました。駐車場も多かったなどということを感じました。

子ども未来塾のリーダー研修会のイベントで、私が最初に開会の話をする前から、子どもたちのやる気が伝わってきました。10時30分頃から1時間、百瀬敬塩尻市長が登場して、百瀬市長は、塩尻市の人口の推移はこうなっているよと、若い世代は何パーセントで何人だとか、具体的な資料

を出しながら、子どもたちに説明をしました。子どもたちはメモを取りながらしっかりと聞いていました。その後、残り10分くらい、みんなの意見を聞きたいという形で進みました。

1例で、「市長さん、僕は塩尻市で看護師さんを増やしてほしいです」と話しました。市長が、「どうしてかな」と問い返しました。すると、「僕のおじいちゃんが病院に行ったとき、なかなか看護師さんが忙しそうで来なかった」と。そこを心配して、「忙しい看護師さんがもっともっと楽になるようにたくさんいたらいいな」と、看護師が欲しいということを孫目線から感じたことを市長に要望している姿がありました。

少し日は遡るのですけれども、両小野小学校の運動会へ、行かせてもらいました。当日はいい天気でしたが、前日の雨でグラウンドコンディションが悪いということで、1時間遅れでスタートしました。私も早めに行ったので、子どもたちの様子を見たり、地域の方ともお話ししたりする時間がありました。

その中で、指揮台の横で1人の高学年の子が何か緊張している様子というか不安な様子で、隣の子はにこにこしているの、何か様子が違うなと思いながら見つめていたところ、その不安げな子は児童代表で、指揮台にあがって、みんなに話をしなくてはいけないということが分かりました。その子がお話を終えて指揮台を下りたそのときです。テントの中から1人の先生が声をかけるのです。多分、「頑張ったな」というような。すると、その子の顔がぐっとよくなるわけです。ここが一番大事なかなと。そんな姿を見させていただきました。

2点目です。入学式、始業式から2か月くらいたった、6月12日でした。塩尻市巡回校長会が両小野中学校を会場に行われました。巡回校長会は、普段は、塩尻総合文化センターの会議室でやっているのですけれども、そこを離れて、市内の学校を年ごとに回りながらやるのが巡回校長会です。授業参観、生徒の姿、それから学校の環境、それぞれ学校は特色がありますので、その様子をお互い学び合えるということと、各校長は、自分の学校と比較検討できるのです。改めて自分の学校はどうなのだというような問い返しもできる、様々なメリットがあります。教育委員会事務局も皆行って様子を見て、現場を見て、その先の仕事に生かせる機会でありました。

授業参観の様子です。1年生は美術の時間、4時間かけて、まず下絵を完成させ、そして色塗りまでの第1時間目を見させていただきました。前の時間、前時と言いますが、そこで感じ取ったり、構想図を考えたりしました。本時のスタートでは、全員で確認し合う場面がありました。その後、自分がここを描きたい場所に行って、構図だとか、一点透視みたいなものがあるのですが、生徒たちが中学生になって2か月くらいなのですけれども、しっかりとやっている姿を見させていただきました。とても清々しいなと思ったのと同時に、私は1時間目が始まる前に行ったのですけれども、当番の生徒が「1年21名、出席者21名、よろしくお願ひします」と言うのです。つまり、全員そろってのスタートの挨拶をしていました。

各場所に移動した生徒たちですけれども、昨年まで両小野小学校にいた小柳津校長先生が今回ここに来ているわけで、1年生はとても懐かしそうに、小柳津校長先生も照れながら、頑張っているねみたいな、微笑ましい姿を見ることができました。

特別支援学級の授業で、生徒1人、先生1人の個別学習だったのですけれども、その子もプリントをやり終えてしまって暇そうで、先生が、もう1枚やらないとか言っているときに、ちょうど私が入って行きました。その生徒はとてもリラックスしていて、しばらくして、プリントに向かって黙々と始めて、それもいい姿かなと感じました。

2年生の理科では、生徒たちは真剣に実験観察、その結果を確認しており、3年生は社会科の教科書や資料集等から情報収集しながら、学びを深めている姿を見ることができ、私はとてもうれしく思いました。

3点目です。今朝のニュースですけれど、皆さん、出口クリスタとケリー姉妹のオリンピック出場が決まりましたよね。ちょうど1年前の5月の下旬でした。クリスタ選手が世界選手権で優勝して、金メダルを持って市長訪問しました。ケリー選手も一緒についてきての会見だったので、そのとき、クリスタ選手は、「1年後、私は今まだ目標半ばで、パリオリンピックの選考に選ばれることを一番に練習します」と頼もしい発言をしたのですが、その後、妹のケリーが、「私も姉に負けないように、オリンピック目指して頑張ります」と話しました。ちょうど1年前でした。それが見事、今回、姉妹一緒ということで。姉妹は広丘小学校と丘中学校で学んだ選手ですけれども、広丘小や丘中だけではなくて、塩尻市あげて2人の選手を応援していこうと考えています。皆さんもぜひ熱き応援をよろしくお願ひしたいと思います。

私からの報告は以上であります。

ここで、何か御意見とかお考えとかありましたら、発言をお願ひしたいと思います。短時間で申し訳ありませんが、お願ひしたいと思います。

小松委員 今年度4月から、中学校と小学校の校長先生が代わられたわけですが、一目お会いしたときから、包み込むような優しさがにじみ出ている感じがして、第一印象というのはとても大事でして、子どもたちにしてみれば、特に見た感じで優しい先生かそうでないかという部分も多々あると思いますので、先生と話をしてみたいと、子どもたちが思えるような環境づくりをお願ひしたいと思います。

それともう1点、今、スマートフォンを小学生あたりから持っているのか、中学生はほとんど持っているのか、その辺が私は分からないですけれども、そうなるにつれて、スマートフォンの中にSNSとか、そういうものが今は主流になっていると思います。仲間内のLINEみたいなものをつくってしまうと、ある意味、外れてしまう子とか、またそれが攻撃の対象みたいなものになるとか、そういうような目の前で起こることではない問題があると思います。それは、例えば対面でけんかしていれば、周りの大人が気づきますけれど、そういうLINEなどの世界の中では、大人はまず気づくことがないという遅くなる。そういうところで対処していく方法は、それはここだけのことではないですけれど、大変難しい問題だと思います。中学生は、ほとんどの子どもがスマートフォンを持っているのでしょうか。

富田両小野中学校長 大分多くの子どもたちが持っています。

小松委員 それに関わる、例えば1日にどれくらい使っているよとか、ゲームだったら例えば30分いいよとか、スマホなどの場合には、そういう取り決めが家庭であるのかないのか分かりませんが、ずっとそこにのめり込んでいくと、書き込みとか、そういうものが異常に気になってしまうとか、そういうことが起こってくるのではないかと考えています。

富田両小野中学校長 各家庭で、使用については決まりをつくってもらって、何時間以内にしようとか、この時間から後ろは使わないようにしようとか、それぞれ各家庭にお任せしています。

携帯の中で何をやっているかというのは、実は私たちが分からないですけれど、うちの人も分からないことが多くて、先ほど言ったようなLINEでのつながりとか、まだ友達同士でつながっているのはいいのですけれど、見ず知らずの人とつながってってしまうというのは、非常に学校としては危惧しています。ですので、そういうことについての学習会はよくやるようにしています。

赤羽教育長 情報教育週間をして、指導主事が入りながら、心配されているようなことは含めてやっている状況であります。

では、ほかに。

竹澤委員 全体的話ではなくて、娘が部活をやっているの、個人的な話になってしまうのですけれど

ど、両小野中学校の女子バレー部に所属してしまっていて、今回は、新人戦のときからなのですけども、丘中と合同で中信大会まで出場しました。丘中には3年生がいなくて、両小野中も3年生は1人だけというチームで、新人戦のときは、正直、チームとしてはまとまっていなくて、強くもなかったのですけれど。なので、新人戦のときの成績は、塩尻木曾大会の9校中8位で、中信大会に出たときも、予選リーグを突破できなかったのです。それが今回、塩尻木曾大会でも、もう少しで4強に入れそうなくらいの5位になって、中信大会でも予選リーグは勝ち抜いて、トーナメントに進みました。残念ながら、初戦で負けてしまったのですけれど、そこまでチームとしてまとめた3年生1人がすごかったなと思って。

部活をやっていると、同じ学年の人と相談したいこととかもあったのでしょけれども、そういうところもきっと自分で考えて、他校のメンバーも一緒にまとめて、チームとして強くなったのだらうなと思って、それに感動しました。

赤羽教育長 この後、部活動の話も出ますので。ありがとうございます。
では、次に行きたいと思います。よろしくをお願いします。

○報告第1号 両小野学園運営協議会委員の解任及び任命に係る専決処分報告について

赤羽教育長 初めに、報告第1号、両小野学園運営協議会委員の解任及び任命に係る専決処分報告について、事務局から説明をお願いいたします。

上條学校教育課長 それでは、お手元の資料No. 1を御覧ください。両小野学園運営協議会委員辞任申出書及び推薦書が学校より提出され、委員の解任及び任命について、教育長専決により決定いたしましたので、報告するものでございます。

教育長専決日は令和6年4月1日。任命委員の任期につきましては、前任者の任期となります令和7年3月31日まで。委員の人数は、解任・任命とも8名でございます。委員報酬につきましては、本市と辰野町で、1人当たり年額3,000円を負担し、任期途中で解任の場合は、任命期間により月割りでお支払いをいたしております。

委員名簿につきましては裏面でございますので、併せて確認をお願いいたします。説明は以上となります。

赤羽教育長 それでは、委員の皆様から質疑、御意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。
それでは、次に進みたいと思います。

○報告第2号 要保護・準要保護生徒の認定について〈非公開〉

赤羽教育長 続いて、報告第2号、要保護・準要保護生徒の認定について、事務局から説明をお願いいたします。

なお、本案件は、非公開としたいと思います。会場には、関係者以外いません。それを確認して、事務局から説明をお願いいたします。

〈非公開部分削除〉

赤羽委員長 説明ありがとうございました。それでは、委員の皆様から質疑、御意見等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。
それでは、次に進みたいと思います。

4 議事

○議案第1号 中学校に係る部活動の方針及び塩尻市部活動地域移行計画（案）について

赤羽教育長 続きまして、議事第1号、中学校に係る部活動の方針及び塩尻市部活動地域移行計画（案）について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

上條学校教育課長 それでは、横版になります、資料No. 3を御覧ください。

1の提案の趣旨となりますが、現在、策定を進めております地域移行計画につきまして、国及び県のガイドラインを踏まえた計画案がまとまりましたので、その内容について協議をお願いするものでございます。

内容につきましては、1つ目としまして、計画案策定に当たっては、国、県のガイドラインに準じたほか、関係者に対して実施しましたアンケートやヒアリング結果を反映させてございます。

2つ目としまして、昨年度2回開催しました中学校部活動地域移行等協議会で出された意見や、4月30日から5月30日までの日程でパブリックコメントを実施し、広く市民から意見を募りました。

これまでの経過となりますが、昨年9月に地域移行等協議会を設置しまして、これまで2回、関係者と意見交換を行っております。また、今年に入り、県の指針案がまとまりましたので、その案に準じて市の計画案を取りまとめ、4月の庁議、4月30日から1か月間、パブリックコメントを実施いたしました。

パブリックコメントの主な内容としましては、例えば休日の部活動はやめてもよいのではないか。地域移行には賛成だが、指導者の資質、能力のガイドラインが必要ではないか。お金がかかると参加できなくなるなど、5件の御意見をいただいております。

また、6月6日には、塩尻市議会議員全員協議会でも協議を行い、地域クラブの中体連への出場基準や、地域クラブ活動と学校行事のスケジュール調整の必要性などの意見をいただいております。

続きまして、2ページ目を御覧ください。別冊で2つの資料を用意してございますが、それぞれについて概要について説明させていただきたいと思っております。2ページ目になりますが、国、県のガイドラインが示されたことに基づきまして、本市では、昨年度実施しました生徒や保護者等に行った調査、地域移行等協議会からの意見を踏まえ、次の2案を作成し、移行を進めていく計画であります。1つ目としまして、学校部活動の在り方や地域移行の目的などを示しました「塩尻市方針案」、2つ目としまして、地域移行推進の具体的方策を示した「塩尻市計画案」であります。

続きまして、具体的な御説明、3ページ目を御覧ください。まず、「中学校に係る部活動の方針（案）」についてでありますけれども、これまで同様、県の指針に準拠し作成してございます。理由としましては、中体連の大会に参加するためには、国や県の指針を遵守する必要があるということからとなっております。

方針の主な概要としましては、生徒や教職員にとって適切・適正・持続可能な活動になるよう、指導体制や活動時間、休養日等の規定を設けてございます。また、子どもたちが地域でスポーツ・文化芸術に親しめる環境を構築するとともに、教員の働き方改革を推進し、学校教育の質を向上させることを目的に、地域移行を進めてまいります。このほか、国では令和7年度までの休日の地域移行を推進しているため、可能な限り、地域クラブの早期の環境整備を図りつつ、長野県では都市部と違いまして、受け皿となる地域クラブが少ないなどの理由から、令和8年度末の移行計画を立てております。塩尻市も同様に、令和8年度までに地域クラブへの移行完了を目指すこととしてございます。

続きまして、4ページ目を御覧ください。部活動地域移行計画（案）につきましては、現時点では、国や県の財政措置が令和8年度予算でないと分からないこともありまして、昨年から設置した

地域移行等協議会でも、方向性を議論するのは時期尚早ではとの御意見もいただいております。計画案については県のガイドラインに準拠し、必要最低限の内容で作成しております。

計画案の概要となりますが、本市の現状において、生徒数が減少し、団体競技ではチームが組めない、先ほども話がありましたけれども、学校が多くなっております。また、教職員の超過勤務も依然として常態化している状況であります。そのような状況の中、生徒の活動の場を守ろうと、学校や顧問が主体的に動き、複数校による合同部活動の取組を行っている現状があります。また、小学校高学年の多くの児童が、放課後などに習いごとをしております。中学生になったら部活動をやりたいと考えているものの、やりたい競技や活動の部活が進学先がない場合もあることから、新たな競技や活動の場をつくることも重要と考えております。

以上のことから、次の3点、一番下に（ア）（イ）（ウ）ございますが、1つ目としまして、学校部活動を持続可能な形で継承・発展させ、連携先となる地域クラブなどの発掘・育成などについて検討するとともに、新たな活動の場を創出します、「子どもたちの願いを叶える環境づくり」。2つ目としまして、部活動指導員や外部指導者、地域で活動している人材や団体などと連携を推進する、「学校部活動の地域連携の推進」。3つ目としまして、より充実した活動が継続的に進められ、部活動ごとに最適な形で地域移行を進める、「休日の部活動の地域移行の推進」の3点を、計画期間中の基本目標とし、事業展開を図っていくこととしております。

最後に、5ページ目を御覧ください。現在、それぞれ会議等を行っておりますけれども、顧問の先生や地域指導者、生徒などから様々な御意見がありますので、それらの出された意見、課題を次の3つの会議を設け、対話することで解決を図っていき、最終的には、3つの基本目標の達成に向け、計画を進めていくこととしております。

図の真ん中、対話と書かれているところになりますけれども、1つ目が一番右側にあります、昨年度から設置した移行計画全般の課題解決を検討します「中学校部活動地域移行等協議会」。2つ目が、真ん中にごございます、種目別に協議を行う「種目別地域移行検討会」。3つ目が、現在も学校ごとに顧問や保護者、指導員が協議の場として設けております、一番左側になります、「スポーツ・文化芸術活動運営委員会」。これらの会議で課題等を解決し、休日の地域移行を進めていくこととしております。概要となりますが、別冊につきましては、以上の説明となります。

赤羽教育長 説明ありがとうございます。それでは、委員の皆様から質疑がありましたらお願いしたいと思います。

両角教育長職務代理者 この後、塩尻の移行計画（案）というのは説明があるわけですか。もう少し細かく。

上條学校教育課長 今のが概要となっております。

両角教育長職務代理者 概要ね。分かりました。要望みたいな形になると思いますが、大きくは2点です。

1つ目は、当然分かっているとは思いますが、外部指導者とか部活動指導員、外部指導者については、松本でいろいろな問題が起きました。私、あれも無理はないと思うくらいです。女の子というのは、若いコーチが来れば、格好よければ魅力的なので、どこまで頼っていいのかというのは分からないというか、そういうのが当然出てくると思う。だから、外部指導者の力のある、力のあるというのは、要するに、女の子をものにする力ではなくて、部活動をきちんと教える、そういうものをどういうふうにしてつけていくかということ。

それから、私も部活動指導員をやっていますけれども、微々たるお金ですが多少もらっています。それで、ここの指導者が、結局はきちんとした指導者が生まれてこない限りは、学校の職員の負担軽減はできないと思います。それと同時に、子どもたちが満足した部活動ができないと思います。

そこをどういうふうにすればいいかということは、当然、研修とかいろいろ、それもありますが、教員もそうですけれども、幾ら研修してもおかしな人はいるというか、そういうのがありますので、とすればどうなるかという、ある程度そこにお金をかけて、先生たちもそうですが、部活動指導、日曜日などもそうですけれども、昔より若干高くはなったのですが、ある程度お金が出れば、一生懸命やりますという人は当然出てくるし、今でも、学校の職員でも部活指導をやりたいという人も当然いるわけです。ただ、やりたいけれども家庭もあるしとか、ということもありますので、なかなか難しいところはあるのですけれども、まず予算化というところもしっかり考えていただきたいというのが1つ目です。

それから2つ目ですけれども、国のほうで地域移行と言いますが、私、一応全部目を通しましたが、塩尻を一括して地域移行を考えるのは難しいと思います。というのは、檜川と北小野は、市内と全然違います。なのに、一括で考えていくと、それこそ隅に追いやられたものになってしまうので、檜川と北小野もきちんと入れて、別に考えて、同じくらいに力をいれてほしいと思います。そこを無視すれば、その人は塩尻市内へ行けばいいのか。

私、前にのる一との会議に出ていったことがあったので、のる一とのところで聞きました。そして、北小野はのる一との対象になっていないと。もしなっていれば、例えば夕方、何々の部活がどこの中学校に練習に行くからといって予約をして、何人かいるはずですから、そこへ乗せていってもらえるわけですね。そして、何時に迎えに来てくださいという、また乗せて帰ってもらえるわけですね。ところが、のる一とは北小野は対象外だと言われました。だから、そこでも要望として、ぜひお願いしたいと言ったら、教育委員会に相談してみますと言っていましたので、どの程度の話が通っているのか知りませんが、要するに、今、親は共稼ぎなので、絶対に親が夕方連れていくなんてことは不可能です。子どもたちが大体4時頃終わるか3時半頃終わって、その時間で連れていくなんてことはほとんど不可能です。だから、まず移動するのだったら、きちんとそのところの対策も考えていただきたいということです。

それから、さっき言った、檜川とここが違うというのは、当然ここから市内へ行くのは難しいけれども、ここや檜川の人数の増やすということを見ると、檜川は、地元ではない人が7人だけ入りました。それはそれで、増やすということでもいいと思います。ここは、そういうふう増やすということはほとんどないです。年々減ってくるだけです。そうすると、この人数を増やして、子どもたちが希望するスポーツを楽しめるかどうかということです。人数が少なくて楽しめる競技というのは、個人競技か、せいぜい2人でやる競技しかありません。それを指導する人となると、余計に学校も地域もなかなか難しくなってしまう。

そうすると、小中学校で、檜川は義務教育学校にもなっているのですけれども、ここは檜川と一緒にできないです。檜川は一つの校舎に入っていますし、義務教育学校になっているし、ここは別の校舎です。とすると、今ここで試してみたいにしてやっているのは、小中学校で、いわゆる小学校5年生からもう部活動みたいな形で一緒にやる。そうすると、人数は多くなります。レベルが違って、そこは、スポーツの楽しみというのは、うまくやれば楽しめるわけですので、そのところを考えてやっていただければということになるので、そうすると、小中学校で、要するに5年生くらいから部活動を一緒にやるという形です。これは、東京都などはほとんどそうです。小中学校になっていると、5年生から中学2年まで、部活を一緒にやっているのです。

なのに、ここは、今試してみたいな形でやっていますが、先ほど竹澤委員からも話が出ましたけれども、バレーも今5人しかいないのです。ちょうど5人なのです。そこに小学生が1人入るだけで6人になります。それでも、6人になれば、6人の動きがバレーでは絶対に必要な練習になってくるわけです。

それから、吹奏楽もそうです。この前、吹奏楽の先生に聞いたら、吹奏楽で小学校の金管楽器があります。そこと同じところへ行って、別々に演奏をするのですけれども、合同で一緒に演奏はしないのです。なぜかという、小学校のほうで、中学生と一緒にやるなんてとても申し訳なくてと言っているのです。でも、小学校で金管をやっていた児童が中学へ来て、吹奏楽部へ入るのは多いのです。そのまま入ったときに、考えてみてください。小学校5年生くらいから、一緒にできるときに一緒にやっていたら、中学1年に入ったときに即戦力です。

私のところもそうですが、バスケットをやっているのですけれども、小学校5年生からやっているのです。入ってくると即戦力で、1年生が試合に出るようになってしまいます。出て、きちんとできるようになるのです。そういう考えでないと、この檜川とか北小野は、人数が少ないままいってしまうので、そうすると、例えばバレーにしたって、バレーを1対1でパス練習をやっている、バレーの楽しみは分からないです。やはり6人対何人という形でやって、初めてバレーの楽しさが分かる。バスケットもそうです。5対5ができると、本当にバスケットの楽しみが分かるわけです。

そういうようなことを考えたときに、檜川とここの北小野の地域移行、国と県と要望している、希望するところはいいです。子どもたちがやりたいスポーツをとことん楽しみながらできるように施策していくというのが市のやることですし、学校でもやること。それを考えたときには、それなりの違いがあるということ踏まえた上で考えていってほしいということ。だから、そこのところしっかりやっていかないと、なかなか北小野、檜川はうまくいかないのではないかと思います。ぜひその点、2点ですけれど、よろしくお願ひしたいと思います。

赤羽教育長 ありがとうございます。ほかに委員から御意見等ございますか。いいですか。

小松学校教育課課長補佐（児童生徒支援係長） まず、最初の外部指導者や部活動指導員の関係ですが、これも市だけで考えても集まらないのです。県のほうで、人材バンクを今つくって動いているようですけれど、そういうところに登録者が増えて、しかも、県のほうで、そこに登録するときには、こういった要件の人を募集するというのでやっていただければ、全市町村とてもいいのですけれども、現時点で、県のほうでそういう動きは見られないので、松本市もこれからそういう独自の基準をつくって、そういう人たちを確保するというふうに動くでしょうし、資格を持った人を育成するための資格の助成みたいなことも動くと思うのですけれども、そういうことがどうしても市町村単位になってきてしまっています。塩尻市のほうでも、松本市のようなことが起こらないように、かつ、指導者のある程度の数が必要になってくるので、そういった人たちを確保できるような取組を考えていきたいと思っています。これから、それぞれの自治体でいろいろなことができてくるので、そういった先事例を参考にしながらつくっていききたいと思っています。

あと、2点目の両小野、檜川の話が出たのですけれども、塩尻市の計画は、ほかの市町村の計画に比べて、一番細かく会議を設定しています。先ほどの会議の5ページを御覧いただきますと、会議を3つつくりました。普通の市町村ですと、地域移行等協議会を立ち上げなさいということで、協議会だけ立ち上げているのですが、我々は、それをさらに競技別、学校別に会議を立ち上げます。この種目別地域移行検討会については、それぞれのバレーならバレー、バスケットならバスケットの市内の関係者が集まって、どういうふうにやっていこうというような話の場ですし、この左側のスポーツ・文化芸術活動運営委員会というのは、学校単位で関係者に集まっていたいて、その学校の部活動をどうしようかという会議になっています。ですので、こういったところで、これから議論していくところであって、例えば両小野でいきましたら、両小野のスポーツ・文化芸術活動運営委員会のところで、どうするかという話を実際にさせていただくということになります。

実際に今、我々のほうで、吹奏楽部が檜川と両小野と筑北、生坂が合同で練習しているという状況も知っていますし、そのバス代も補助はしております。その状況を聞く中で、大規模な学校、名

前を出してしまうと、例えば広陵とか丘というところに、両小野の吹奏楽部が入れてほしいといっても、なかなか難しいという現状もあるようで、吹奏楽は、どうしても市内の近いところと一緒にやろうとしても難しいという状況もあって、やむなく、そんな遠いところの人たちが集まって練習しているという状況も知っているのもので、こういったものを、どういうふうによくやっていくのかというところは課題だと思っています。

そこも含めて、それぞれ競技の関係者の人たちが集まって話し合う場をつくって、しっかりとそれぞれの競技に合った移行の方針を決めていくことが必要だと思っているので、今こういう地域移行計画（案）にしております。

赤羽教育長 いいですか。そのほか、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、今の御意見も参考にしながら進めてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

では、次に進みます。

5 校長報告

赤羽教育長 5番、校長報告に入ります。富田校長、よろしく願いいたします。

富田両小野中学校長 両小野中学校の校長として着任しました富田章と言います。よろしく願いいたします。

上條前校長先生が、たのめの里と呼ばれる両小野地区の皆様が学校に寄せる思いや、子どもたちに対する愛情を受け止め、子どもたちがこの地域を愛し、将来、自立して生きていくための力をつけられるよう3年間尽力されてきました。私も着任早々ですので、それをまずは引き継いで、子どもたちを真ん中に置いた学校経営をしていきたいと考えています。

本校は、4月に21名の1年生が入学し、58名の生徒と26名の職員でスタートいたしました。とても元気のよい1年生を迎えることができたと思っております。しかし、皆様も御承知のとおり、本校は昨年度末に、卒業生とその保護者を中心とした教育活動への不満や不信感から、互いに理解し協力し合う体制が揺らぐ事態になってしまいました。4月は、メディア報道によって、子どもたち並びに学校職員が、多くの方々の注目されることとなってしまい、つらい日々を過ごすこととなりました。しかし、現在は、子どもたちの頑張りや職員の努力によって、少しずつ日常が戻ってきているように感じます。これからも、中学生は、地域を元気にしてくれる源となれるよう、自信と自覚を持ちながら、地域の一人として育っていつてくれることを願って育てていきたいと思っています。

3のこれまでの活動からですが、本校の特色である活動として、アントレプレナー学習と夢プロジェクトがあります。アントレプレナー学習では、そこに挙げました4つの講座で、グループごとに活動しています。昨年までのアントレプレナー学習を引き継いでスタートしているわけですが、コロナ禍で途絶えた部分が大きく、様々な点で混乱しているようです。ですが、一つ一つ職員と確認しながら、現在進めているところです。

今年度は、この活動について職員研修を企画しています。東京都市大学塩尻高校の先生をお招きして、地域における生徒の自発的な活動の仕組みについて、研修を計画しています。そして、この教育実践を通して、生徒は自分というものを見つめ、想像力、チャレンジ精神、コミュニケーション力、判断力、問題解決能力などといった技能を高めていつてくれると考えています。

夢プロジェクトでは、そこに挙げた3つの活動を計画しています。また、うとうくんグッズの発売や着ぐるみのうとうくんが地区に出ていく計画もあります。そういう活動を通して、地域愛を育んでいきたいと思っております。

先ほども話題になりました部活動ですが、中信地区大会の結果を報告させていただきます。これから大会を控えている部活動もありますが、夏季大会が終わった部活動もあります。野球部は、合同チームながら、県大会に進むことができました。それぞれの部活動が、合同チームという形ではありますけれども、自分の夢に向かって、それぞれ頑張ってくれたと思っています。

吹奏楽部は、5月26日、塩尻市レザンホールにおいて、第4回Ryoono Resonateを行いました。今回は、檜川小中、生坂中、筑北中の吹奏楽部も参加し、全14曲を演奏してくれました。地域の方や保護者、生徒の皆さんが100名以上もこの演奏を聴いてくださいました。7月15日、中信地区吹奏楽コンクールに向けて、現在、日々練習に励んでいます。

美術部は、文化祭に向けて、作品活動に取り組んでいます。

5の生徒、教職員に期待することですが、アントレプレナー学習や夢プロジェクトなどの総合的な学習や生徒会などの特別活動で培われた力は、学力向上の大切な要因と考えています。職員にもそのことを話し、生徒が中心となる活動を仕組むようお願いしているところです。

例えば清美委員会が話し合っ、校舎のワックスがけを計画していますが、清掃が行き届かず困っていました。そこで、PTA活動の中で、親子作業の時間を使って、校内清掃を計画しています。PTAが計画している活動に参加するのではなく、子どもが計画した活動にPTAが参加していただくようにすることで、子どもたちは企画力や運営力が育つと思います。

また、4月24日、小学校、中学校合同の両小野学園地区運営協議会が行われ、そこに挙げましたとおり、4つのグループで今年の学園の活動について話し合いをしています。この中で、学力向上で研究主任が中心となって、小学校、中学校が共通した指導・支援方法で明確にした授業スタイル、両小野スタンダードを基に研究を進めること、相互参観を計画しています。

学校目標、「頭・体づくり、心づくり、仲間づくり」に向かって、確かな学力、豊かな人間性、輝く表現力を重点項目にしなが、やる気を持って進路を切り開く生徒、自己実現に向けて挑戦する生徒、自己有用感を感じて自信を持つ生徒を具現の姿として、自分が進むべき道を見つける3年間を経て、地域を愛し、地域に貢献する生徒を育てていきたいと考えています。御支援、御指導をよろしく願いいたします。

赤羽教育長 校長先生、ありがとうございました。御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局から何かございますか。

瀧沢学校教育課教育企画係 本日お配りしました資料No. 2、マル秘の案件につきましては、この後、回収をいたしますので、そのまま机の上に置いておくようお願いいたします。

6 閉会

赤羽教育長 以上をもちまして、本日の教育委員会を閉会といたします。どうもありがとうございました。

○ 午後13時45分に閉会する。

以上

塩尻市辰野町中学校組合教育委員会会議規則第17条第2項の規定により署名する。

教 育 長

同職務代理者

委 員

委 員

委 員

記 録 職 員
学校教育課教育企画係
